

平成29年度

第15回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成29年11月7日(火)
開会13時35分 閉会14時20分

場 所 教育委員室

平成 2 9 年度
第 1 5 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

- ①科学の甲子園ジュニアの選考結果について
- ②第 2 回農業高校生の収穫祭について
- ③平成 2 9 年度第 4 回グローバルリーダー育成塾「高校生サミット」について
- ④平成 2 9 年度「差別をなくす人権標語」優秀賞の決定について

(2) 協 議

- ①平成 3 0 年度海事職（通信長）及び実習助手採用選考について

(3) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	松 田 順 子
	委員	首 藤 照 美
	欠席委員	高 橋 幹 雄
事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	岩 武 茂 代
	教育次長	木 津 博 文
	参事監兼教育財務課長	森 崎 純 次
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	参事監兼文化課長	佐 藤 晃 洋
	教育改革・企画課長	能 見 駿一郎
	教育人事課長	法華津 敏 郎
	福利課長	中 村 均 子
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	姫 野 秀 樹
	社会教育課長	阿 南 典 久
	人権・同和教育課長	樋 口 哲 司
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹（総括）	下 鶴 直 哉
教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史	

2 傍聴人

2 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、高橋委員が欠席です。

ただいまから平成29年度 第15回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、林委員にお願いしたいと思
います。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は14時30分を予定しています。
よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議
を公開しないことについてお諮りします。

協議の①は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運
営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しな
いことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

それでは、協議の①は非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願いいたします。

【報 告】

①科学の甲子園ジュニアの選考結果について

(工藤教育長)

それでは、報告第1号「科学の甲子園ジュニアの選考結果について」米持義務教育課長から報告いたします。

(米持義務教育課長)

「第5回科学の甲子園ジュニア大分県大会について」ご報告いたします。

1 ページをご覧ください。

大会の趣旨でございますが、本大会は中学生の科学に対する興味・関心を高めるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的として、また全国大会の代表校選考も兼ねて、平成25年度より開催しており、今年で5回目を迎えました。

大会の概要でございますが、今年度は一次予選を8月5日に、二次予選を9月30日に開催しております。

一次予選は1チーム6人で、数学や理科、情報の筆記問題約80間に協働して取り組みました。また、エキシビションとして文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されております大分舞鶴高校の教員と生徒5名による「おもしろ科学実験講座」を実施し、競技に加え、実際に科学に触れる機会を提供したところです。

二次予選は物理分野と数学分野に3人ずつ分かれて、資料に示しておりますような実技競技に8チーム48名の生徒が挑みました。

結果は、平松学園向陽中学校Cチームが最優秀賞に輝き、全国大会の県代表に決定しました。優秀賞以下は、資料に示したようになっております。なお、明日8日には、全国大会壮行会を予定しております。

次に、今年度特筆すべきこととして「公立中学校の躍進」があげられます。

2 ページをご覧ください。まず、参加した学校数やチーム数について

です。「(1) 年度別一次予選参加状況」をご覧ください。

当初は、県立や国立の中学校の参加がほとんどでしたが、「全国への代表決定」という趣旨に加えて、「県内の科学好きの生徒の裾野の拡充」を目的に、大会ポスターを作成し、県下全中学校への配布等により参加促進に取り組んでまいりました。その結果、大分市内の中学校を中心として公立中学校の参加校数が増加し、今年度の参加学校数、チーム数、市町村立学校の参加割合が過去最高となりました。

次に「(2) 年度別二次予選進出状況」をご覧ください。公立中学校で「理数の力」が向上している姿が窺えます。

資料にありますように、最初の3回は二次予選に進出する公立中学校はゼロでしたが、昨年度初めて2校が、今年度は4校4チームが二次予選に進出し、中でも大分市立大東中学校は見事準優勝に輝きました。

また、昨年度は、優勝チームと公立中学校の最上位チームでは900点満点で100点以上の差がありましたが、今年度は、その差が22点となっております。

大東中学校の先生に話を聞きましたところ、生徒たちが自主的に図書室等を集まり、数学オリンピックや科学の甲子園ジュニア全国大会の過去の問題に、事前に何度も取り組んだとのことでした。併せて、「教え合い」をキーワードとして、全ての教室で各班に1枚ずつホワイトボードを設置し、理科・数学以外の教科でも自分たちの考えをホワイトボードにまとめ、全体に説明する学習活動に日常的に取り組んでいるとのことでした。また、2年連続優勝の向陽中学校でも生徒による自主的な事前学習や授業中の「自分の考えを書いて整理し、全体に説明する学習活動の設定」に取り組んでいるとのことでした。

この2校の事例は、「生徒による主体的な学び」、「考えを整理し、表現する学習活動」など日常の授業がいかに大切かを再認識させられる好事例でございます。義務教育課としましては、「新大分スタンダード」による「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開による『主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開』」と重なりますことから、大会参加の促進とともに、県下各中学校における「新大分スタンダードの推進」に引き続き取り組んでまいります。以上で報告を終わります。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

大分、日田市以外の地域から出場に向けた動きや先生方の挑戦したいという気持ちはどの程度広がっているのでしょうか。

(米持義務教育課長)

県内各地域への取組の広がりについてですが、共催である大分県中学校教育研究会理科教育部会と協力し、まずは事務局員のいる地域を中心に周知を行っているところです。まだ周知が足りない部分もございますので、今回の結果等を広く周知し、理科・数学好きの子どもたちの育成を図っていきたいです。

(林職務代理者)

例えば大分市での開催を中津市での開催に変更するというような事も検討していただきながら、ぜひ全県に広げていただきたいと思います。

(岩崎委員)

大分豊府中学校の参加状況や成績が下がってきていますが、指導する教員によってこのような取組への興味や関心が変わるのでしょうか。この状況についてどのように把握しているのでしょうか。また、どのように対応しているのでしょうか。

(米持義務教育課長)

ご指摘いただきました県立中学校においては希望参加であり、校内で必ずしも理科・数学の力のある生徒が出場しているとは限りません。希望参加のあり方やそれぞれの良し悪しも踏まえて今後の改善に努めてまいります。

(岩崎委員)

指導する教員によって生徒の参加意欲にも違いが出てくるのではないのでしょうか。

(米持義務教育課長)

例えば大分市立大東中学校の指導者は、3年前からどの教科やどの学年でもアクティブ・ラーニングに取り組んでいました。このような授業での取組と、理科、数学の力を伸ばす今回のような大会を関連付けられたら良いと考えます。

(岩崎委員)

理科・数学の先生方に積極的に参加するように呼びかけをしていただきたいです。

(松田委員)

高校の大会もあるようですが、中高連携によりお互いが高め合うような取組を行っている事例はないのでしょうか。

(米持義務教育課長)

2次予選に進んだ日田市立東部中学校には日田高校の生徒が事前指導で加勢したと聞いています。

②第2回農業高校生の収穫祭について

(工藤教育長)

続いて、報告第2号「第2回農業高校生の収穫祭について」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第2号「第2回農業高校生の収穫祭について」ご説明します。

A4表裏のカラー印刷のチラシをご覧ください。

この収穫祭は、県内9校10学科の農業系学科で学ぶ高校生が日頃の実習等を通して生産した収穫物に感謝するとともに、県民の皆さまに農業系高校の取組を知っていただき、これからの農業を支えていく担い手育成の重要性について関心をもっていただくことを目的とし、昨年度から実施しています。

チラシにございますように、平成29年11月25日(土)にJR大分駅前のアミュ広場にて開催いたします。販売・展示は10時から、アトラクション、無料体験コーナー、一校一品紹介なども開催します。

続いて2ページをご覧ください。各学科が今年度一校一品として取り組んでいるものです。今年が県の3年間の事業の最終年度になります。各学校ではそれぞれ新商品の開発や、スキルアップということで取り組んでおります。報告は以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

農業系の学校を訪問した時に感じるのですが、特に1年生が元気がないと思います。大分に限らず日本の環境がそうしているのかもしれない。

中学校の成績で判断し、普通科高校へ進学した生徒の中には高校で何をすればよいのか分からなくなって途中で退学している生徒もいますし、「実は農業高校に行きたかった」という生徒もいます。もっと中学生に農業高校の素晴らしさを実感させてあげるとよいのではないのでしょうか。そして、農業に興味がある中学生は農業高校に進学していただい

て、自分で農業について学んでもらえたらいいと思います。農業高校の3年生からは、「農業高校に来てよかった」「自分が作った苗を地域の人が待っていてくれることが嬉しい」と聞くこともありました。

このような行事を通して、子どもたちが自ら農業高校に行って学びたいという気持ちを養ってほしいです。

(姫野高校教育課長)

マスコミ等のメディアも活用して、取組を紹介していきたいと思います。そして、多くの中学校の生徒や保護者に来ていただきたいです。この行事については10月31日に開催した市町村教育長会議でもパンフレットを配布し、中学校の生徒や教員の方々への参加の呼びかけについて依頼したところです。

③平成29年度第4回グローバルリーダー育成塾「高校生サミット」について

(工藤教育長)

続いて、報告第3号「平成29年度第4回グローバルリーダー育成塾「高校生サミット」について」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第3号「平成29年度第4回グローバルリーダー育成塾について」ご説明します。

まず、資料2ページをご覧ください。5月の教育委員会会議でご説明したように、5月27日の開講式からスタートいたしまして、現在までに3回開催しました。第1回、第2回は、全県下の高校生を集め、200名を越える生徒たちが参加しました。第3回は福岡で1泊2日の研修を開催し、50名程の生徒が参加しました。今回は第4回のご案内です。1ページにお戻り下さい。

12月9日(土)に県教育センターで150名程度を集め実施する予定です。今回も中学生に案内を行っています。

「7 日程」について説明します。まず、高校生の多様な学びをお互いに知ってもらうため、グローバルリーダーとしてグローバルリーダー育成塾に参加している別府鶴見丘高校と大分上野丘高校の生徒による発表、別府翔青高校のグローバルコミュニケーション科の取組発表、サイエンスリーダーとして今年からSSHに指定された佐伯鶴城高校の防災教育についての発表、産業教育リーダーとして大分商業高校の商業についての課題研究発表、玖珠美山高校の農業についての課題研究発表、津久見高校のロボット研究の発表を行います。これらには中学生も参加していただいて、高校の学びを知ってもらうようになっています。

昼からは、グローバルリーダーの資質として「英語力」を設定してい

ますので、英語で留学生等と意見交換を行う予定です。

最後に自分たちの意欲を喚起するため、高校生による提言を行い、1年間の幕を閉じる予定です。

このような取組を通じて、リーダーの資質を育成しながら、未来の大学の創生に向けて、気運を醸成するような取組を進めていきます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

日本人は英語で自分の考えを発表することが非常に苦手とされています。今回のプログラムでは、午後から留学生を交えて英語でディスカッションすることが予定されていますが、こうした活動に生徒が慣れてくると億劫がらずにできるのではないのでしょうか。とても素晴らしい取組だと思います。

(林職務代理者)

150名程人数を集めるということですが、全県の高校から参加しているのでしょうか。それともSSHやSGHなどに取り組んでいる学校から参加しているのでしょうか。

(姫野高校教育課長)

地域の学校はこのような機会を他校の生徒と知り合い、切磋琢磨できる機会と捉えており、地域の学校から参加する生徒は増加しています。

(林職務代理者)

いろいろな人にこのような機会に挑戦していただきたいと思いますし、意見交換ができるような場を提供してください。

(首藤委員)

10月26日に開催された都道府県・指定都市教育委員研究協議会で、外国語教育分科会に参加し、グローバルリーダーの育成や英語教育の推進について協議してきました。

本県ではグローバルリーダーとして、全人的な人間性等を育てようという内容にウェイトを置いています。来年から試行される小学校3、4年生の外国語活動や5、6年生の英語の授業での取組などが全国的な趨勢です。そのようなことから、英語教育に今年から取り組まないと全国的なレベルには追いつかないと思います。英語を自由に話せるという点を「グローバル人材」の核として常に意識しながら取り組んで行かな

いといけないと思いました。

また、午後のディスカッションについても意見があります。来年度からでもよいので、小中学生が慣れ親しむものから、高校生が本当にディスカッションをするレベルまでいくつかの分科会を設定し、いろいろなパターンで英語に慣れ親しむようなことが出来るよう構成していただきたいと思います。

(姫野高校教育課長)

来年以降の参考にしていきたいと思います。

これまで8月に小学生対象で1泊2日、中学生対象で2泊3日のイングリッシュキャンプを実施してきました。その活動中はALTと英語で話すという設定にしておりますが、小中学生は大変積極的にALTと英語で話す様子が見られました。来年度からは、それをもっと地域に広げていく計画をしているところです。また、10月に開催した留学フェアでは高校生だけでなく、中学生も対象として開催し、ALTを呼んで一緒にディスカッションさせています。このような機会を更に小中高と広げていきたいと考えています。

(松田委員)

身近な小学生や中学生がロータリーやライオンズクラブ、ソロプチミストなどが主催する英語の弁論大会に参加したり、留学をバックアップしてもらったりしています。こうした、民間の団体とも連携していくと活動ももっと広がると思います。

④平成29年度「差別をなくす人権標語」優秀賞の決定について

(工藤教育長)

続いて、報告第4号「平成29年度「差別をなくす人権標語」優秀賞の決定について」樋口人権・同和教育課長から報告いたします。

(樋口人権・同和教育課長)

報告第4号「平成29年度「差別をなくす人権標語」優秀賞の決定について」ご説明させていただきます。

1ページをご覧ください。昭和53年から始まりましたこの取組は、「人権を守り、差別をなくす」ことを内容とした標語を募集し、優秀作品をポスターやステッカーにして学校や市町村の公共施設等に掲示し、児童生徒をはじめ県民の人権意識の高揚を図ることを目的としています。

今年度も7月初めから約2ヶ月間にわたり募集を行い、「6 応募状

況」にありますように、約10万8千点の作品が寄せられました。

10月初めの一次審査で12名の1次審査員がそれぞれ10作品を選び、そのうち上位6～8作品を優秀作品候補として選出しました。その後、最終審査を10月24日に行い、2ページにある作品が優秀作品として選ばれました。

学校の統廃合等により、児童生徒の作品はわずかに減少しておりますが、一般県民からの作品は、徐々に増加傾向にあります。今年度は、一般の部において、株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所からの作品が優秀賞に選ばれております。今後も、企業等への参加の呼びかけを行い、県民の参加を広げていきたいと考えております。

今後は、12月始めに入札にかけ、1月にはポスター・ステッカーにして各学校等に配付・掲示するようにしております。なお、優秀作品の表彰については、今月18日にガレリア竹町ドーム広場で行われます「ヒューマンフェスタ2017おおいた」の会場で13時から、人権作文・人権ポスターの表彰と合わせて行う予定となっております。報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

日本人が描くポスターは肌の色が同じですが、外国人が描くポスターにはいろいろな肌の人が描かれています。このような視点で審査することも必要ではないでしょうか。

(樋口人権・同和教育課長)

知事部局の人権・同和対策課が担当しておりますので、担当課にその旨を伝えます。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でその他、何かございませんか。

では、非公開の議事を行いますので、関係課長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

(関係課以外及び傍聴人退出)

【協 議】

①平成30年度海事職（通信長）及び実習助手採用選考について

（工藤教育長）

次に、協議の①「平成30年度海事職（通信長）及び実習助手採用選考について」法華津教育人事課長から説明いたします。

（説 明）

（工藤教育長）

ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

（質疑・意見等）

（工藤教育長）

他に、ございませんでしょうか。

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

（工藤教育長）

それでは、最後にその他、何かございますか。

それでは、これで平成29年度第15回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。